

## カエルとガマの9月十字架称賛対談

ガマ・・・カエルさん、ごぶさたしました。やっと朝夕に涼しさが感じられることとなりましたね。

カエル・・・今年も厳しい暑さでした。東北、福島、そして各地の被災地のみなさま、さぞ、大変なこととお察ししています。

ガマ・・・アシジはいかがですか？

カエル・・・はい。9月8日、聖マリア誕生の祝日に、13人の兄弟の誓願式がありました。5月の対談のように、しつこく、イエスさまについて行こうとする若者たちです。イタリアから5人、レバノンから3人、フランス、ドイツ、オーストリア、メキシコ、クロアチアからそれぞれ1人です。

ガマ・・・主イエスの呼びかけを聴き、思い巡らし、生涯かけて応えようとしておられるのですね。

カエル・・・修道生活への召し出しについて、イタリアにはすばらしい言葉があります。Magari (マガーリ) です。修道司祭になったら・・・と呼ばれて、それは主よ無理です・・・と応える・・・でも、思い巡らすうちに、そうなれたらうれしい・・・とを感じるようになり・・・そして、そうなりますように・・・祈るようになる・・・そして、そうなる、そうなる!!!

ガマ・・・なんとすばらしいことでしょう！ 自分自身ではどう考えても、ちょっと無理・・・でも、そうなれたら、主よ、そうなりますように・・・主がその祈りに応えてくださる・・・そうなる・・・主がみわざを成し遂げてくださるのですね。

カエル・・・わたしも若い時から、その道を歩ませてもらっています。主よ、無理です！・・・でも、主よ、そうなりますように！ 主はみわざを続けてくださっています。13人のためにお祈りを続けてください。誓願を立てた若者たちはそれぞれ、ローマ、パドア、アシジの神学校で学びます。希望に満ちていますが、辛抱強さも要ります。

ガマ・・・山浦先生のお言葉が思い出されますね。

カエル・・・《ケセン語では「辛抱する」ということばを「家を建てる」ということとほとんど同義語のように用います。家を建てるということは並大抵のことではありませんから、その辛抱をこうしてねぎらうのです。わたしが家を新築した時も、隣近所の人びとが「先生、辛抱したねえ」といってわたしを心からねぎらってくれたものです。辛抱は単なる我慢と同じではありません。我慢はただひたすら無言で困難を耐え忍ぶことですが、辛抱はそれを乗り越えて進むのです。だから今、人々はいいます。

「又、辛抱すんのっしゃ(また辛抱するのですよ)」 (イエスの言葉p66より)

ガマ・・・主と共に、主のために、主によって・・・「辛抱すんのっしゃ！」と生き生き歩んでいる若者たちなのですね。

カエル・・・そうです。若者たちも聞いたのです。師父聖フランシスコの心に響いた主の呼びかけ「行って、倒れかかったわたしの家を建て直してくれ！」

ガマ・・・主の家、言い換えれば、「お互いに相手を大事にしあう」(イエスの言葉p109)家が、そこここで倒れかかっています。国々の間で、その国の社会の中で、職場で、学校で、家族のなかで、そして一人ひとりの心の中で・・・。

カエル・・・「和と善」を携え、主の家を建て直し、堅固にする・・・そのために聖別、奉獻、派遣されていくのです。これこそが、十字架称賛の祝日の深い意味なのですね。

ガマ・・・主イエス・キリストの十字架のほかにわたしたちには誇るものがない。キリストのうちに、救いといのちと復活がある。

(十字架称賛・入祭唱)